

第11回日本臨床検査学教育学会学術大会を終えて

坂本 秀生*

神戸常盤大学を主会場として、平成28年8月31日(水)から9月2日(金)まで、第11回日本臨床検査学教育学会学術大会を開催致しました。

3日間を通しての参加者は318名の教員(学会会員281名、非学会会員37名)に加え、学生が169名、日本臨床衛生検査技師会(日臨技)から参加の6名、合計493名の方々に有料参加を頂きました。ご来賓の方々と展示企業の方々に加え、実務を担当した本学教職員及び学生の74名を加えると参加者総数は600名を超える方々となりました。このように多くの方々にお越し頂き、無事に終了することができたのは、ご参加を頂いた皆様のご協力とご理解のおかげと実行委員一同お礼を申し上げます。

本年は日本で28年ぶりに世界医学検査学会(IFBLS 2016)が神戸市で開催され、同時期開催でありIFBLS 2016との合同シンポジウム等の合同

企画、諸外国の学生同士の交流も企画し「臨床検査技師の国際化」をテーマに致しました。学術大会テーマに沿い、第1日目のシンポジウムでは「学生時代から行う国際交流の意義」として専門学校、短期大学、私立大学、公立大学などバックグラウンドの異なる各学校の先生方より、それぞれの視点で国際交流例を発表して頂き、学生の行う国際交流の意義を皆で考えました。第2日目の大会長講演では「臨床検査技師の国際化へよせる思い」と題し、私自身の海外生活や各種の国際学会への出席経験を元に、臨床検査技師も国際的な視点を持つ意義をお伝えさせて頂きました。大会テーマの真骨頂は最終日に神戸国際展示場で行ったIFBLS 2016と合同企画。テーマを「How to Make Next Generation Biomedical Laboratory Scientist」とし、卒前教育を含めて次世代に対応できる臨床検査技師養成について本協議会とIFBLS代



写真1 学術大会看板前で談笑する参加者



写真2 神戸常盤大会場でのシンポジウム

*神戸常盤大学保健科学部医療検査学科 h-sakamoto@kobe-tokiwa.ac.jp



写真3 IFBLS 2016 との合同シンポジウム

表によるシンポジウムでした。200名予定の会場でしたが、参加者多数のために椅子を追加搬入して頂いても立ち見の方が出るほどの盛況でした。その後は招待講演として、Harvard Medical Schoolからデジタルパソロジーの世界的な第一人者である八木由香子先生をお招きし「デジタルパソロジーにおける臨床検査技師への期待」とのタイトルにて遠隔診断分野で活用が期待される「デジタルパソロジー」の最前線と臨床検査技師の果たす重要な役割について講演して頂きました。

学術大会テーマ以外にも第1日目には、大学・大学院教育部会企画によるシンポジウムとして「臨床検査技師の大学院教育を考えるー現役大学院生からのメッセージー」では現役の大学院生による現場から生の意見を聞かせて頂き、様々なスタイルを教員として知ることが出来、卒前教育へ活かすことができました。特別講演では熊本地震を体験された、熊本保健科学大学の河瀬晴夫様より「平成28年熊本地震を体験してー熊本保健科学大学からの発信ー」として被災地での臨床検査技師養成校が、災害に対してどのように対応されたかを報告頂き、加盟校の参考とさせて頂きました。夕刻には本年度から情報交換会と名称を変更し、ご来賓はじめ多くの参加者の方々に交流の場を楽しんで頂けたことと思います。

第2日目には10回大会で好評であったように

一般演題発表を集中し、教員42演題、学生29演題、大学院生36演題と計107の発表があり、それぞれ活発な討論がありました。学生発表者の中から「優秀発表賞」を選考する間に教員研修会として、岩手医科大学の諏訪部章先生より「卒前教育に期待することー検査説明できる臨床検査技師の育成ー」について動画も交えて研修を受けました。教員にも進行方法を知って頂けるよう、今年度は教員研修会後に続いて学生向けRCPCを企画し、天理医療大学の松尾収二先生に「学修ツールとしてのReversed CPCー事例から学ぶ検査の読み方・使い方ー」を行いました。前述の大会長講演後には、科目別分科会を例年通りに開催し各科目での情報交換と議論を行って頂きました。

IFBLS 2016開催中の神戸国際展示場に移動した最終日は、閉会式に引き続いて国際学会を通し、多くの学生達に臨床検査技師の国際化や国際学会の雰囲気を感じてもらおうと、幾つかの企画を行いました。まずは本協議会と日臨技の合同で「学生ランチョンセミナー」を開催し、前IFBLS会長の小松京子先生および、日臨技が行うアメリカ臨床検査研修へ参加された武村和哉先生から学生向けに臨床検査に関する国際的な話を頂きました。続いてIFBLS 2016の国際学生フォーラム発表学生達より「国際学生セミナー」としてデンマ



写真4 900席がほぼ満席となった神戸国際展示場での招待講演

ーク、スウェーデン、ノルウェー、台湾、韓国から各国の臨床検査教育について英語で紹介があり、日本代表学生が日本語で要約の説明を行いました。さらに秋篠宮殿下ご夫妻にご臨席頂いた IFBLS 式典へも同時中継ではありましたが参加させて頂き、国際学会の厳かな式典をリアルタイムで体感するとの貴重な機会となりました。

学会員制度が今年度から始まり、参加費が異なることに加え、IFBLS 2016 開催に合わせて例年より1週間開催が遅れたせいで9月からの授業と開催が重なった点、最終日は国際学会と合同企

画のために会場が変更になるなど、変則的な学会でご迷惑をお掛けしたことと思います。しかし、28年ぶりに日本で開催となった臨床検査技師主体の国際学会と同時期に行い、テーマを「臨床検査技師の国際化」として開催させて頂いたことで、日本にいながらにして臨床検査技師の国際化へ有益となったことを願っております。

末筆になりましたが、シャトルバスを用意させて頂いたとは言え、坂の上にある神戸常盤大学まで多くの方々にお越し頂き、神戸常盤大学の教職員及び学生を代表し、心よりお礼を申し上げます。